



vol.14
H27.10.5
発行

いつもJA津安芸をご利用頂きありがとうございます。
JA津安芸管内の農業情報や農業を営む担い手の皆様に少しでも役に立つ情報をお届けさせていただきます。



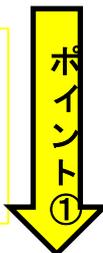
TAC課

来月には、小麦の播種時期です。 難防除雑草イタリアンライグラスでお困りではないでしょうか？

小麦圃場で、イタリアンライグラスが発生して収穫作業が困難になり被害が出ています。小麦・大豆の連作圃場で多く発生が見られ、小麦と同じムギ類なので防除が難しくなっています。
そこで今回は、愛知県で確立したイタリアンライグラスの防除技術を紹介します。

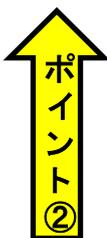
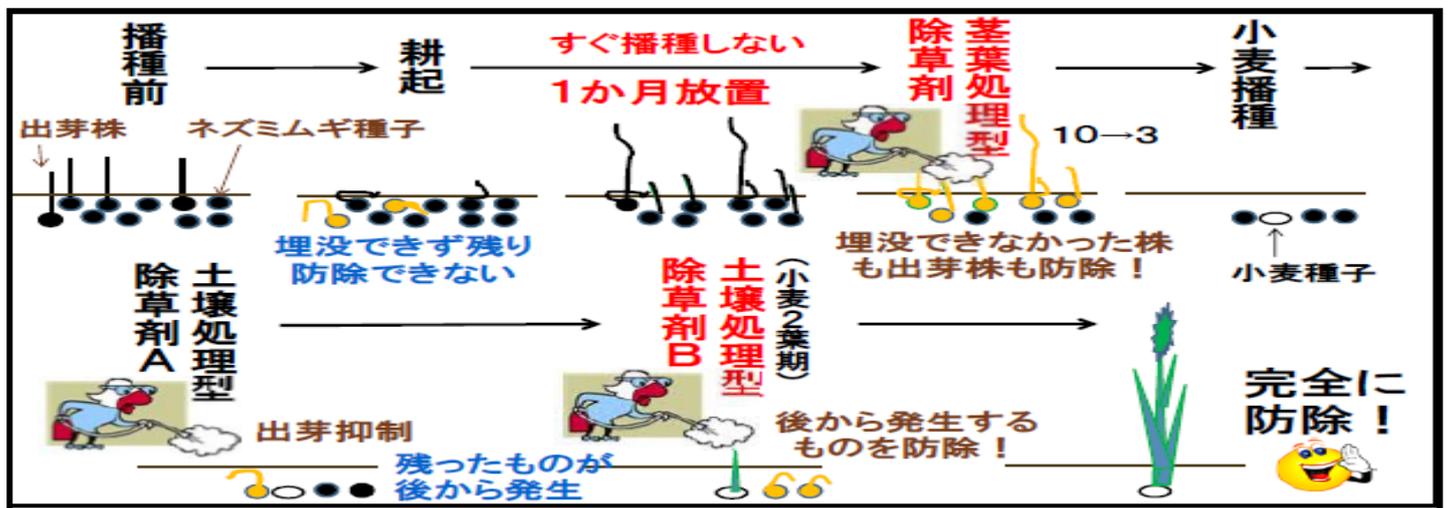
今まで、防除をできなかった原因として

- 原因① 耕起で埋没できず圃場に残った雑草
- 原因② 除草剤の効果がきれてから発生



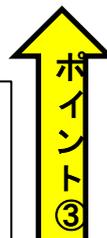
原因①を解決！！
大豆収穫後、すぐに耕起し1か月放置！！

耕起した後に、1か月放置して十分に雑草を生やしてプリグロックスLで防除する。プリグロックスLは、紫外線で枯らすので寒い時でも効果が高い。



播種量増で収量確保！！

＜播種時＞
ただし、播種時期が遅くなり播種量を15kg / 10aまで増やして収量を確保する。
一回目の除草剤として播種直後に登録がある土壌処理型除草剤を散布します。



原因②を解決！！

＜小麦2葉期＞
1か月後くらいから除草効果が切れ始めるので、2回目の土壌処理型除草剤(小麦発芽後登録があるもの)を追加で散布する事で、後から発生するものを防除します。